

IT21 の会（平成 19 年 6 月）第 110 回議事録

日 時：平成 19 年 6 月 8 日（金） 18 時 30 分～20 時 45 分

場 所：葺手第二ビル C・D 会議室

出席者：26 名

配布資料

- ・ 0706-1 IT21 の会 2007 年 6 月例会の案内 第 4 版（児玉公信氏）
- ・ 0706-2 情報システム学的 パタン・ランゲージの再発見（児玉公信氏）
- ・ 0706-3 IT21 の会 第 11 期活動方針（第 11 期役員）
- ・ 0706-4 IT21 の会 10 期会計報告（西垣 栄氏）
- ・ 0706-5 開発と保守工程の自動化で業界を席卷する「GeneXus」、他（大脇文雄氏）
- ・ 0706-6 出席表

議 事

1. 議事および資料確認 児玉公信氏
2. 11 期役員の所信表明 第 11 期役員

廣瀬会長、石田副会長、田中会計役員、二階堂運営役員より、就任の挨拶および活動方針が述べられた。11 期活動方針として、(1)「楽しい会にしよう」、(2)「活発な例会にしよう」、(3)「広げよう ネットワーク」が示された。
3. 10 期会計報告 西垣 栄氏

総会以降の変更点を含めた確定値による 10 期会計報告が行われた。
4. 情報システム学的 パタン・ランゲージの再発見 児玉公信氏

企業情報システムが十分な効果をもたらさない要因として、企業の情報システム部門の主体性の喪失が挙げられる。その解決策を建築学に学ぶことを提案し、施主・設計者・施工者の合意形成プロセスに相当する「情報システムサイクル」を定義する。ここで、施主と施工者の合意事項を「原要求」と呼ぶこととする。原要求は願望法で非機能要求・ビジネスルール等を記述すべきものであり、施主としての企業情報システム部門が継続的に維持するものである。

建築学には、Christopher Alexander 氏によるパタン・ランゲージと呼ばれるアイデアがある。これはソフトウェア工学におけるノウハウ記述の方法として導入されて、大きな成果を得たが、本来は、「まちづくり」の活動であり、パタンは其中で使われる、施主、設計者、施工者間で共有する技術的語彙である。この活動は、単に建造物を作るのではなく、建築物を通して営まれる生活の質の設計を目指す。

情報システムサイクルにおいても、パタン・ランゲージは有力な一つの方法と考えられる。この活動は「たゆまざる道」であり、施主である情報システム部門によって維持され、ユーザからのフィードバックを蓄積し、改善して、効果をもたらし続けることが必要である。

このような情報システムサイクルとソフトウェアサイクルの方向性は異なるものである。この違いを調停することが「アーキテクト」の役割と考えられる。

最後に、いわゆる「IT アーキテクト」が高度設計者に過ぎない現状について、その本来果たすべき役割についての問題提起がなされた。
5. GeneXus 取り組み紹介 大脇文雄氏

読売ウィークリーで紹介された記事、マイクロソフトとのパートナーシップ等が紹介され、4 年目を迎えた GeneXus 普及への取り組みが紹介された。
6. その他連絡事項、初参加の方の自己紹介
小牛田氏より、HP 委員の募集が行われた。

以 上（記載者：中嶋幸宏 記）